

この本は、発達障害の重複や強弱について解説されている本です。「発達障害の重複があると複雑な現れ方をして、十分に理解されずに、本人は生きづらさを感じるようになる。周りの人はもちろん、本人にもそのことを知ってほしい。」著者の本田先生はそう語りかけます。そして、対応方法について「環境調整」として分かりやすく書かれています。発達障害について、もっと知りたいと思っている人は、是非一度、手に取ってみられてはいかがでしょうか。

この本には、「発達障害のようではあるが、自閉スペクトラム症（ASD）とも注意欠如・多動症（ADHD）とも言いきれず、どちらの特性も存在している」「発達障害に該当すると断言することは難しいけれど、発達の特徴がある」という事例が解説されています。また、発達障害の特性には強さ、濃さのようなものがグラデーションであることも解説されており、発達の特徴を幅広く見ることが重要とされています。それが生活の様々なバランスの中で支障となったときに特徴として出てきます。しかし、その特性に合わせて生活環境を整えることで、本人も周りの人も「特性に合った生活」ができます。いわゆる「ふつう」とは社会の「多数派」に該当することであって、発達の特徴がある人は「少数派」であり、スタイルが違うだけ。少数派には少数派の生き方がある。この本では、少数派の人たちの行動の背景となっている心理に気付くことができます。彼らの生きづらさを理解し、健康に幸福に生きていくためのヒントが得られるのではないのでしょうか。

〈その他、本田先生の著書やYouTube 動画〉

講談社 本田秀夫・日戸由刈 監修 『自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本 幼児・小学生編 / 思春期編』



YouTube 動画『再配信 発達障害の子どもにみられる不登校』



# サポート通信 VOL. 29

特別支援教育センター校からの情報発信ネットワーク

発行者 広島市立広島特別支援学校地域支援部 広島市南区出島4丁目1-1 TEL 代表 (082)250-7101



## 自分に合った学び方を見つけ、学ぶ意欲と自信につなげるために

### 対話を通して、合理的配慮の在り方を検討する

GIGA スクール構想に伴い、全国の学校で一人一台端末の活用が始まりました。これまでも読み書きの困難さを補うために、教室で自分のタブレット端末を文房具として使ってきた子どもがいます。一方、教室の中で自分だけタブレット端末を使うことをためらっていた子どももいたでしょう。そんな子どもたちが自分に合った学習の方法を選びやすくなることが期待されます。今後「読み書きを補うためにタブレット端末で入力したり読み上げを聞いたりさせてほしい。」といった、個別的な使い方を希望する声が増えるかもしれません。

私たちは、希望する内容を丁寧に聞き取り、対話を通して「どんな方法、どんな学び方ができるか」を検討していく必要があります。それには、子どもがどういうことに困っているのか、どういうニーズがあるのかを見極めることがとても大切です。方法を試した後に感想を聞いたり、複数の方法を比較したりしながら調整することも必要です。子どもがそのよさに気付き、「これならできそう」と思えることで、学習への意欲が持続できると考えます。そして、子どもが自分に合った学び方を選択できるようになるということは、自分に必要な合理的配慮を自ら求めていくこと（セルフアドボカシー「自己権利擁護」）につながります。

学習で大切なのは、そのねらいを達成することです。そのために学習方法やルールに幅をもたせることは、個々に合った方法で学びやすくなることはもちろん、教室でお互いを認め合うことにもつながるのではないかと考えます。

### 個々の子どもに合った学び方を検討するには…

● どのような方法、どんな学び方があるといいかを相談する。

● 解決するための工夫を一緒に考える。

● 選択肢があると考えやすい。

● 本人の意向を聞く。

● 本人の意向を基に調整をする。

● 振り返りを活かし調整する。

次は振り仮名付きで、先生が読み上げを試してみようか。それとも…

初めから必要な配慮を明確に伝えられる子は多くはないです。まずは試して普段と比較し、良さを実感できることから始められたらいいですね。

● 試した後は振り返りをする。

振り仮名をつけて読みやすさは変わった？ 時間はどうか？

- 振り仮名の文字は赤よりも黒が読みやすかった
- 振り仮名が多すぎて読まないと、と思って焦ってしまった
- きちんと読むことはできた
- 振り仮名がたくさんあって読みにくかったが、今まで全然読めていなかったし読んでいなかったのだと感じた
- 振り仮名があることにより、時間をかけて文章をきちんと読む分、時間がかかって時間内にテストを終えられなかった ※ 実際のAくんの感想

● 皆と違うのは抵抗があるな…

● 皆、読みやすくなるね！

● 別室という手もあるよ

● 振り仮名付きテストも使ったよ？

● 振り仮名付きはA4サイズになるんですよ…

● 読みやすくなるね！

● 皆と違うのは抵抗があるな…

● 皆、読みやすくなるね！

● 別室という手もあるよ

## 研修案内



### 広島県情緒障害教育研究大会

「実践と講演のコラボ」が売りの「県情研」開催のお知らせです！

期日：令和3年12月18日（土）13:00～17:00

開催方法：Zoom ミーティングによるオンライン開催

講演：「一人一人を大切にする学級づくり」

東京都立矢口特別支援学校 主任教諭 川上 康則 先生

実践報告：「一人一人を大切にする学級づくり～読み書きの苦手な子どもへの支援～」

広島市立高須小学校教諭 神岡 賢史 先生

申込は <https://kenjoken-hiroshima2021.peatix.com>

申し込み締切：12月5日（日） QRコードから申し込みサイトへ→



# 報告

## 「子どもを理解し、支援につなげるWISC-IVの活用について」

### 情報を集め子どもによりフィットした支援を考える

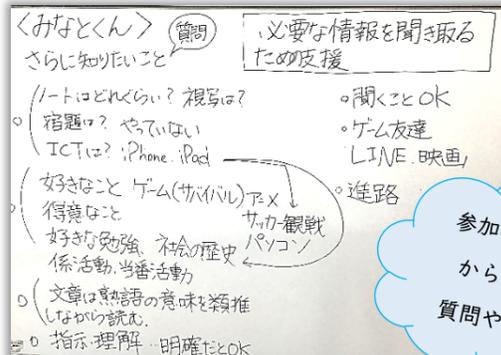
8月4日（水）に夏季サポート研修会が行われました。今年度は「子どもを理解し、支援につなげるWISC-IVの活用について」というテーマで研修が行われ、前半が「検査の概要を知ろう」、後半が「プロフィールを理解し、支援につなげよう」という内容でした。

前半の WISC-IVの概論では、4つのカテゴリーからなる検査を実際に体験しながら、この検査の内容と検査の持つ意味合いについて理解を深めました。参加された先生方からは、「今までの検査結果を見てもよく分からないことがあったが、今日の研修で理解できた。」「4つの指標が構成要素になっていること、その項目の内容を詳しく理解することができました。」という感想をいただきました。

後半の「プロフィールを理解し、支援につなげよう」では、子どもの日常の様子とその子どもの WISC-IVのプロフィール（架空の事例）を見ながら、子ども像を描いてもらいました。また、主訴の解決に迫るために、そこからさらに知りたい情報を質問してもらいました。スコアには表れない、子どものより具体的な情報を知るための鋭い質問がたくさん出されました。よりリアルな子ども像をもとに、どのような支援が有効であるか意見を出し合いグループでも交流しました。子どもの実態把握に沿った有効な支援方法を、参加者全員で作りに上げていくことができました。

参加された先生方からは、「必要な支援については一人で考えるより、グループで交流することで意見が広がり良かった。」「具体的な設定があった上での演習があり、とても良かった。」「その子にとって何が有効な手立てなのかを常に考えながら子どもと向き合っていきたい。」などたくさんのうれしい感想をいただきました。

今回の研修では、例年2日間で行う研修を1日に短縮し参加者を絞って開催しました。来年度も、日々の実践に行かすことのできる研修を行いたいと思います。



参加者の皆さんから出された質問や支援方法

**必要な情報を聞き取るための支援**

- 視覚支援
  - iPadで撮ったものを示す
  - 大切なところに線を引く
- グループ学習で友達と意見交流
- 質問の仕方のパターンを示す
- キーワードを示す
- 短いことばで簡潔にくりかえし

**書くことへの支援**

- タブレットの使用
- 撮影、音声入力
- 歴史を紹介するノートづくり
- 板書と同じシート
- 書字量の調整
- 宿題量の調整
- マスの調整

# 報告

## 教育相談会

### 特別支援学級の担任の先生対象で開催しました

夏季休業中（前期：8月2日～10日 後期：8月18日～20日）に、本校教員が相談支援者となり、市内小学校、中学校の児童生徒の指導や支援、実態理解やアセスメントなどについて、相談支援を行いました。後半の日程に予定していた相談が突然中止となってしまい、大変御迷惑をお掛けいたしました。

参加していただいた先生方からは、「将来の進路についてとても参考になった。」「具体的な支援方法を教えてもらったり、悩みを聞いてもらったりして気持ちが楽になった。」「今後も分からないことがあれば聞いてみたい。」などの感想がありました。



# 取組紹介

## アセスメントを基にした取組

### 日々の活動に作業療法士からのアドバイスをプラス！

本校では、作業療法士や理学療法士と連携して児童生徒の指導に当たっています。今号では、作業療法士のアセスメントとアドバイスを受けて行った取組について紹介します。

作業療法士（OT：occupational therapist）からは、日常生活に関わる応用動作を可能にするための練習方法や、情緒・行動面についてのアドバイスをいただきます。



落ち着く方法、褒め方、かわり方



手指の使い方、鉛筆・ハサミの使い方



日常動作（食事、着替え、排せつ、入浴など）

#### 【児童（A児）の実態】

授業中、姿勢を正して座る姿勢を保持し続けることが難しく、体が横になったり机に伏せたりする。歩行時は、両足の裏を床に擦るように歩き、体づくりでは動きにぎこちなさがある。集中力が乏しく身の回りの物に意識が転導していく。

#### 【作業療法士（OT）の先生の見解】

児童の様子から考えられることが4つあります。

- ①低緊張で姿勢を保持することが苦手
- ②下肢の筋力が弱い
- ③体の複数の部分に意識を向けることが難しい
- ④集中力が続きにくい

重い物を上に持ち上げる筋力はあるか、膝や股関節の動きはどうか、実態を把握してみましょう。  
<こんな動きはできるかな？>



日々の学習や日常生活の中に体幹を鍛える活動を取り入れてみることをお勧めします。掃除の時間に意識して言葉掛けをしてみたり、体育のサーキット運動や、体づくりの時間に下肢の筋力を鍛える活動を取り入れてみたりするのもいいですね。

#### 【作業療法士（OT）の先生からのアドバイスを受けて】

毎朝の体づくりでは、下肢の筋力を高めるために、足をもち上げる姿勢を取り入れたオリジナルの体操を作りました。A児の好きな曲を使用したことで、毎朝やる気いっぱい取り組んでくれました。自立活動の時間には、体の一部分に注意を向けられるような取組を行いました。その中でも、足の指を使った「タオルキャッチ」や、「タオルの引っ張りあいこ」は、ゲーム感覚で楽しみながら行うことができ、体の一部分に注意を向けることやどうやって体を動かすと良いのか意識することに結び付いたのではないかと思います。また、机上の課題に取り組む際には、課題が終わるごとに教師の元へ来るようにしたことで、一つ一つの課題に集中して取り組む姿が見られるようになってきました。今後も難しさを抱えている要因は何か、いろいろな視点から児童を見て、学習活動を考えていきたいと思



オリジナル体操で楽しく♪

教師と向かい合ってまねっこポーズ

足の指でタオルキャッチ!

できた!

先生見てください!

ガタッ

課題ごとに離席OK